

ファミリー・ホスピス かわら版

令和2年
12月号
(2020年)

はじめに

日頃より大変お世話になっております。ホスピス・緩和ケアの品質管理を担当しています梅田と申します。

ちようど、私が看護師になった三十年ほど前、WHOが「緩和ケアの定義（1987年）」を発表し、日本では保険診療に「緩和ケア病棟基準」が新設されました（1990年）。その頃が、日本における、ホスピス・緩和ケアの草創期になります。しかし、当初、ホスピス・緩和ケアは、死をタブーと考える世間の風潮もあり、医療者であつ



日本ホスピスホールディングス(株)
執行役員 事業本部 品質管理責任者
梅田 恵 (がん看護専門看護師)

これまで昭和大学病院の緩和ケアチーム、昭和大学保健医療学部のがん看護専門看護師コースを担当してきました。どこにいても質の高い緩和ケアが受けられる、一人一人の尊厳が守られるコミュニケーションをめざし、この4月より現職に着任

てもなかなか理解を得ることが難しく、ホスピス・緩和ケアへの抵抗感は相当なものでした。

2007年のがん対策基本法を機に、「早期からの緩和ケア」への意識が高まり、重要なケアとして求められるようになってきました。

高齢多死社会に向かう現実やQOLへの意識の高まりなど、さまざまな要因が緩和ケアへの意識を変えてきたように思います。中でも教育は、緩和ケアを必要とする人々への理解を深めるとともに、痛みや悲嘆のケア、そしてチームアプローチを推進する大きな力となっています。

そして、質の高い緩和ケアの実践が、緩和ケアへのニーズを高めています。当社では、スタッフにELNEC-Jの教育プログラムを活用しています。この教育プログラムは看護師用に開発されたものですが、ともに働くスタッフ同士、また連携する地域のリソースとの共通言語となり、チーム作りの基盤とできるよう、多職種で学習しています。

この瓦版で、当社の教育の基盤としてELNEC-Jの紹介を少しずつさせていただきます。と思っています。

ELNEC-Jの特徴は？

ELNEC-Jは、米国で開発されました。看取りケアやホスピス・緩和ケアの教育は、さまざまなところで少しずつ、バラバラに行われていて、系統的に学べるようにはなっていませんでした。そこで、講義や研修の内容や方法を調査し、10時間ほどで学べる9つのモジュール（項）にまとめられました。2007年から日本版のプログラム開発が始まり、その時に超高齢化の日本では、高齢者について学ぶことが必須であると話し合い、特別にモジュール9が加えられました。

ELNEC-Jで講義を行うのは、日本緩和医療学会が行っている指導者研修を修了した指導者です。この指導者研修は10年以上続いており2千人以上の指導者が、年間二百回以上、この研修を実施しており、既に3万人以上が受講しています。ホスピス・緩和ケアについての情報交換で用いる言葉やアセスメントのポイント、コミュニケーションスキルなどを学び、ホスピスケアを行うチームメンバー間のつながりを円滑にしています。また、このELNEC-Jでは、ロールプレイや事例検討など実践的なワークが含まれています。日頃のケアでモヤモヤとしていた思いが自分だけでなく、他のケアスタッフも抱く思いであることがわかるだけでも、ケアへのモチベーションが沸いてきます。

ELNEC-Jコアカリキュラム指導者用ガイドの構成

モジュール1	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護
モジュール2	痛みのマネジメント
モジュール3	症状マネジメント
モジュール4	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的配慮
モジュール5	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮
モジュール6	コミュニケーション — 患者の意思決定を支えるために —
モジュール7	喪失・悲嘆・死別
モジュール8	臨死期のケア
モジュール9	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア
モジュール10	質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成

ELNEC-J
(End of Life Education Consortium JAPAN)
<https://www.jspm.ne.jp/el nec/>

アを行うチームメンバー間のつながりを円滑にしています。また、このELNEC-Jでは、ロールプレイや事例検討など実践的なワークが含まれています。日頃のケアでモヤモヤとしていた思いが自分だけでなく、他のケアスタッフも抱く思いであることがわかるだけでも、ケアへのモチベーションが沸いてきます。

ファミリー・ホスピス 成瀬ハウス 「らいふプラン」の実現

「らいふプラン」って何？

私たちファミリー・ホスピスでは、ご入居されているご利用者様と共に「らいふプラン」を作成していきます。「らいふプラン」って何？と思われることでしょう。少し、このことについて触れさせて頂きます。まず、ご入居されましたら ①プロフィールの聴取をし、そのご利用者様がどのような人生を歩みどのような方であるかを知るために記載いただきます。②医療についてのご希望を伺い、最期をどのように迎えたいかを話し合います。この2つを基にそのご利用者様が何を希望されているかをご本人とご家族に確認し実現に向けてのプランニングをし、かつ最期のむかえ方を家族も含めて相談していきます。それが「らいふプラン」です。

成瀬ハウスでの「らいふプラン」の取組

成瀬ハウスでは、それぞれのご利用者様に看護職・介護職それぞれ受け持つ担当がいます。体調管理をしている看護の目と、生活を支えてくれている介護の目の双方が加わり、

そのご利用者様のご希望がかなえられるよう話し合いを持ちながら実現していきます。

ここで、今までに取り組んできた実例をいくつかご紹介いたします。

【ケース1】Oさんは難病で嚥下障害がある為トロミ等の工夫がないと摂取が難しい状況でした。ご本人様のご希望は「トロミの刺身が食べたい」「ビールが飲みたい」というものでした。介護と看護の受け持ちが実現できる方法を考え、刺身は形態を工夫することで、とろみをつけずに食べやすい形にし、水分については、ストローで飲めばむせないことでビールを試してみたい結果、上手に食べられ飲むことが出来ました。その時のご本人の嬉しそうな顔！自信につながったようで度々晩酌をするようになられています。

【ケース2】難病の■さんは「娘と一緒に歩きたい」という希望をお持ちでした。受け持ちの看護職・介護職・理学療法士がプランを検討しました。看護職の体調管理をもとに多職種が訪問時に運動をお手伝いした結果、歩行器使用ではあるものの娘様と一緒にハウス内を歩くことが出来ました。

最後に、ご本人と共に作成した



「らいふプラン」では、『プランモデルの大きなボートを川に流してみたい』というご希望でした

が、コロナ感染症の影響で船は既に出発が滞っています。川に流しに行くことが出来ず現在それは封印中。その代わりご自身で着々と「らいふプラン」を立てて地域交流をされている方をご紹介いたします。



【ケース3】この方も難病の方ですが、以前ハウスの職員と一緒にハウスの隣のお店に外出した際、車椅子ではその店に入ることが出来ず、お店のオーナーが商品棚を動かして車椅子が通れるようにしてくれらるご配慮をいただきました。外にあるルパン3世の車を見せて頂いたり、オートバイのエンジン音を聞かせて頂いたり、とても親切にご対応頂き、感謝しております。そのお礼をしたくて、そのお店に置いてある車と同じ車種(FORD GT40)のプランモデルを作ってプレゼントしようという計画を立て、毎日作り始めて1か月で完成。ご本人からそのオー

ナーに直接手渡しする機会を作ることができ、オーナーも大変喜んでおられました。そのうれしさは地域の新聞に喜びの声として掲載されました。



次なるプランは「友人が昔乗っていた車を作ってプレゼントする」と前向きな生活を送っています。「川にボートを流しに行く」も早く実現できるように支援していきたいと考えています。

成瀬ハウスの笑顔

編集後記

日々私たちは、ご入居者様ごとに異なる希望を叶えたいと考えています。その為に共に作っていく「らいふプラン」は非常に有用な手法です。

近くにいらつしゃつた際には、是非、成瀬ハウスに足を運んでみてくださいます。笑顔で溢れていますから。

